

高耐久・高強度ウレタン防水システム
HCセルディヨシステム



<http://www.hodogaya.co.jp/hcp/>

〒104-0028 東京都中央区八重洲二丁目4番1号
本 社 TEL.03-5299-8170
東 京 支 店 FAX.03-5299-8275

〒060-0061 札幌市中央区南1条西7丁目20番1号
札幌営業所 TEL.011-281-0151
FAX.011-280-0388

〒981-0917 仙台市青葉区葉山町1-25-702
仙台営業所 TEL.022-739-7384
FAX.022-739-7394

〒541-0043 大阪市中央区高麗橋4丁目1番1号
大 阪 支 店 TEL.06-6203-4651
FAX.06-6203-4653

〒812-0011 福岡市博多区博多駅前4丁目33番6号
福岡営業所 TEL.092-481-6272
FAX.092-481-1682

〒450-0001 名古屋市中村区那古野1丁目47番1号
名古屋営業所 TEL.052-571-4208
FAX.052-571-4212



本記載の物性値は試験の結果を示したものであり、保証をなすものではありません。
本記載内容は予告なく変更する場合がありますので、予めご了承ください。
本記載以外の用途での使用はお控えください。



夢をかたちに、あらゆるシーンへ。 「HCセルディシステム」

『自己防御(セルフディフェンス)性能』を備えたHCセルディシステムは、保護仕上げ層の塗り替えが無くとも長期にわたり防水性能を維持します。

従来のウレタン塗膜防水において耐久性を向上させる手段は保護仕上げ層に依存するだけであり、定期的な塗り替えが必要でした。

しかし上塗り材のHCセルディは1~2mm程度の塗膜厚で**高度な耐久性**を発揮します。

そのため保護仕上げ層が劣化した後でも、**長期にわたる防水性能の維持**が可能となりました。

また、美観を求めない施工箇所では、保護仕上げ層の施工を省略し、工程の簡略化も可能となりました。

用途例：植栽部・スタンド等の重歩行用途・メンテナンスが困難な箇所など

HCセルディシステムの多彩な特徴

●耐久性.....

防水性能維持の為に定期的な保護塗料の塗り替えが不要となるため、ライフサイクルコストの低減に繋がります。

●伸縮性.....

HCセルディシステムの2層構造塗膜は優れたクラック追従性を発揮します。

●強靱性.....

HCセルディは汎用ウレタン防水材の3倍以上の引張強度を有しています。

C O N T E N T S

トップコートレス仕様 植栽・押え(室内)防水工法	CS-35	3-4
屋上・ルーフバルコニー防水仕様 絶縁工法	DCS-35-A	5
屋上多目的防水仕様 密着工法	CS-35-A	6
一般屋上・ベランダ防水仕様 密着工法/既存ウレタン塗膜防水層増し塗り工法	CS-25-A	7
競技場スタンド防水仕様 密着工法	CS-25-NS	8
防水床仕様 長尺シート複合工法/側溝・巾木・立面部防水仕様	CS-25-M	9
トップコートレス仕様	DCS-35/CS-25	10
HCセルディシステムの性状・物性		11-12
HCセルディシステム製品一覧表		13
HCセルディシステム施工上の注意		14

※特許第4372860号「ポリウレタンウレア塗床材用組成物およびその工法」取得済み
高強度ウレタンの設計技術を応用した積層工法による防水システム

DCS-35-A

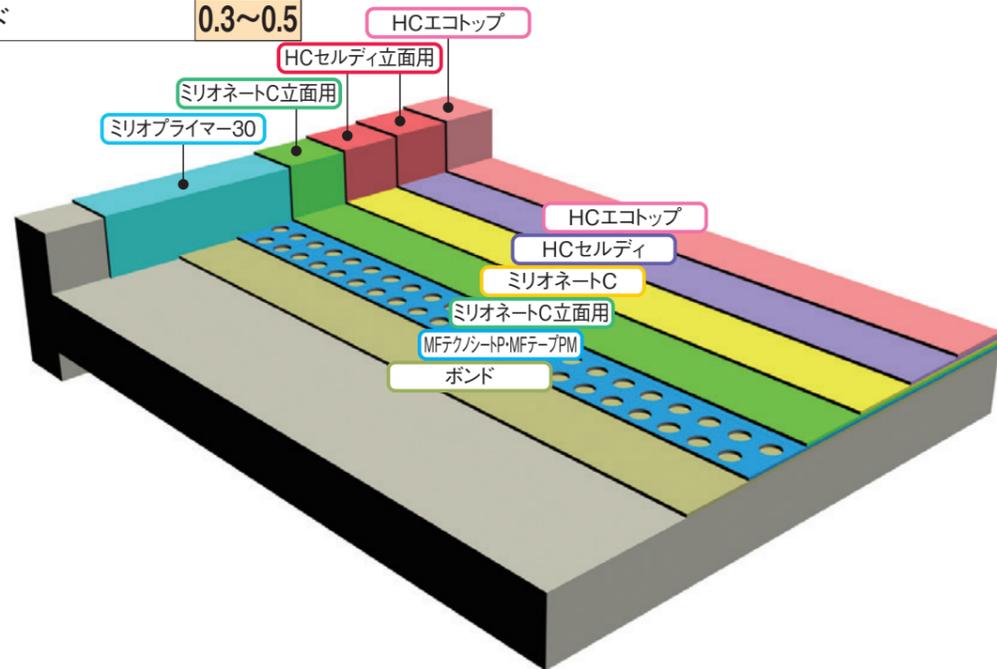
屋上・ルーフバルコニー防水仕様 絶縁工法

■立面部

CS-25V-A		
工程と塗布量 (kg/m ²)		
仕上げ層	HCエコトップ	0.2
4	HCセルディ立面用	0.75
3	HCセルディ立面用	0.75
2	ミリオネートC立面用	1.0
1	ミリオプライマー-30*	0.2

■平場部

DCS-35-A		
工程と塗布量 (kg/m ²)		
仕上げ層	HCエコトップ	0.2
5	HCセルディ	1.5
4	ミリオネートC	1.0
3	ミリオネートC立面用	1.0
2	MFテクシートP・MFテープPM	—
1	ボンド	0.3~0.5



*ミリオプライマー-30はミリオネートCB-30とセメントを適量混合したものです。プライマーは下地によって種類を選択して使用します。
 ※下地の吸い込みが激しい場合はプライマーの増し塗りを行ってください。

CS-35-A

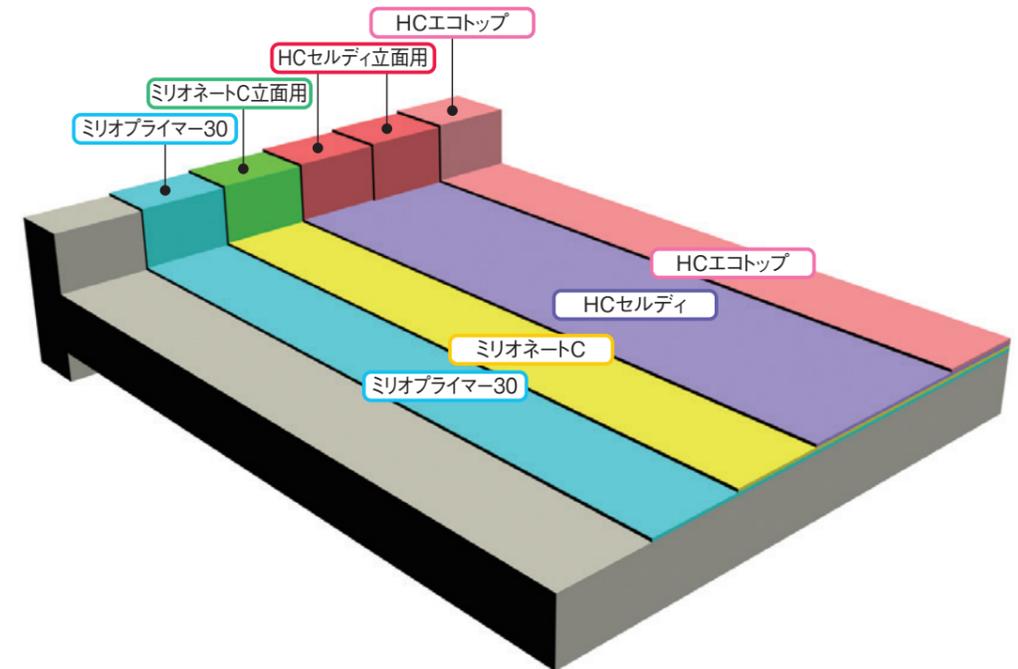
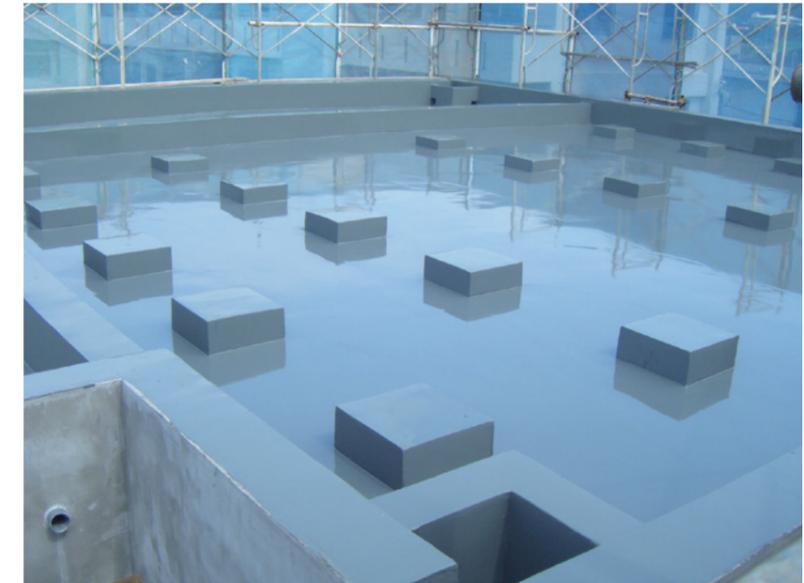
屋上多目的防水仕様 密着工法

■立面部

CS-25V-A		
工程と塗布量 (kg/m ²)		
仕上げ層	HCエコトップ	0.2
4	HCセルディ立面用	0.75
3	HCセルディ立面用	0.75
2	ミリオネートC立面用	1.0
1	ミリオプライマー-30*	0.2

■平場部

CS-35-A		
工程と塗布量 (kg/m ²)		
仕上げ層	HCエコトップ	0.2
3	HCセルディ	2.0
2	ミリオネートC	1.5
1	ミリオプライマー-30*	0.2

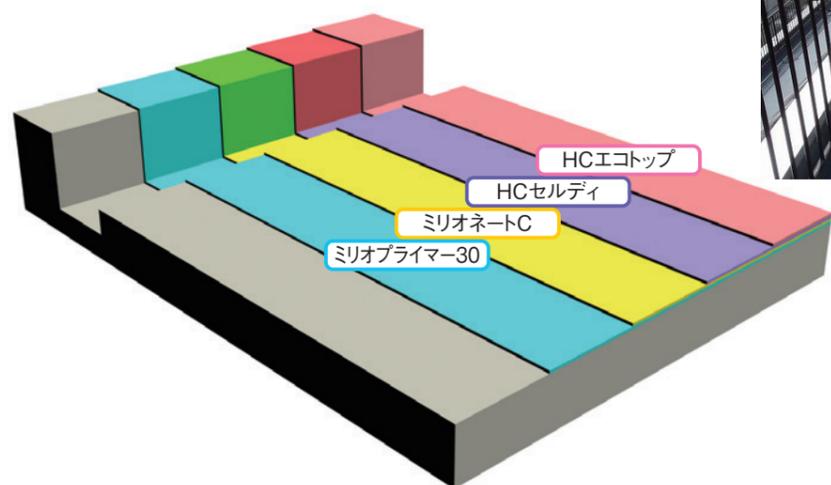


*ミリオプライマー-30はミリオネートCB-30とセメントを適量混合したものです。プライマーは下地によって種類を選択して使用します。
 ※下地の吸い込みが激しい場合はプライマーの増し塗りを行ってください。

CS-25-A

一般屋上・ベランダ防水仕様 密着工法

■立面仕様 CS-20V-A 》P9



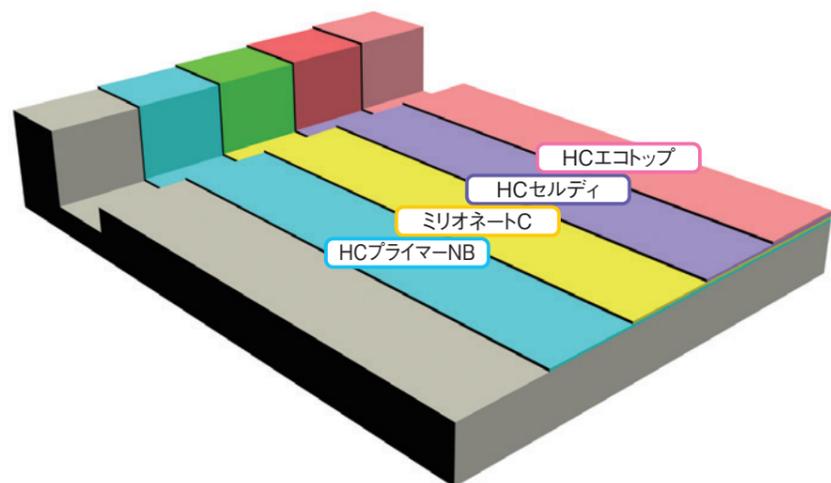
※ミリオプライマー30はミリオネットCB-30とセメントを適量混合したものです。プライマーは下地によって種類を選択して使用します。
※下地の吸い込みが激しい場合はプライマーの増し塗りを行ってください。

■平場部

CS-25-A		
工程と塗布量 (kg/m ²)		
仕上げ層	HCエコトップ	0.2
3	HCセルディ	1.5
2	ミリオネットC	1.0
1	ミリオプライマー30*	0.2

既存ウレタン塗膜防水層増し塗り工法

■立面仕様 CS-20V-A 》P9



※下地の吸い込みが激しい場合はプライマーの増し塗りを行ってください。

■平場部

CS-25-A増し塗り		
工程と塗布量 (kg/m ²)		
仕上げ層	HCエコトップ	0.2
3	HCセルディ	1.5
2	ミリオネットC	1.0
1	HCプライマーNB	0.15

CS-25-NS

競技場スタンド防水仕様 密着工法

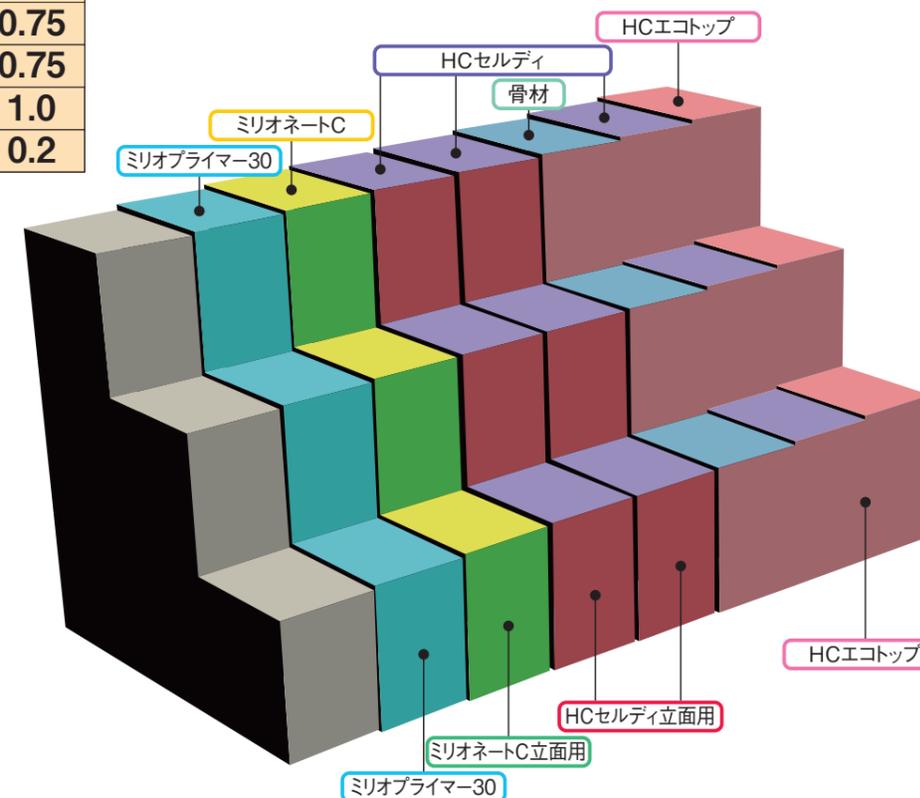
■踏み面部

CS-25-NS		
工程と塗布量 (kg/m ²)		
仕上げ層	HCエコトップ	0.3
	HCセルディ	0.5
	骨材	0.8
	HCセルディ	0.3
3	HCセルディ	1.5
2	ミリオネットC	1.0
1	ミリオプライマー30*	0.2



■蹴込み部

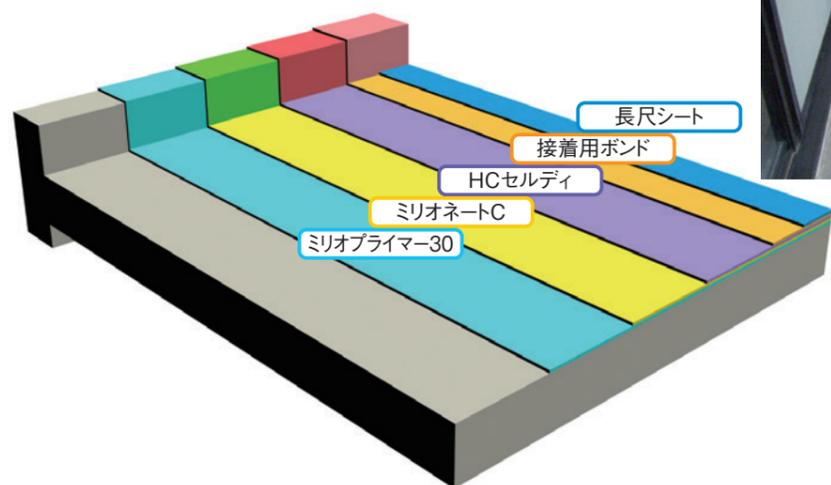
CS-25V-A		
工程と塗布量 (kg/m ²)		
仕上げ層	HCエコトップ	0.2
4	HCセルディ立面用	0.75
3	HCセルディ立面用	0.75
2	ミリオネットC立面用	1.0
1	ミリオプライマー30*	0.2



※ミリオプライマー30はミリオネットCB-30とセメントを適量混合したものです。プライマーは下地によって種類を選択して使用します。
※下地の吸い込みが激しい場合はプライマーの増し塗りを行ってください。

CS-25-M

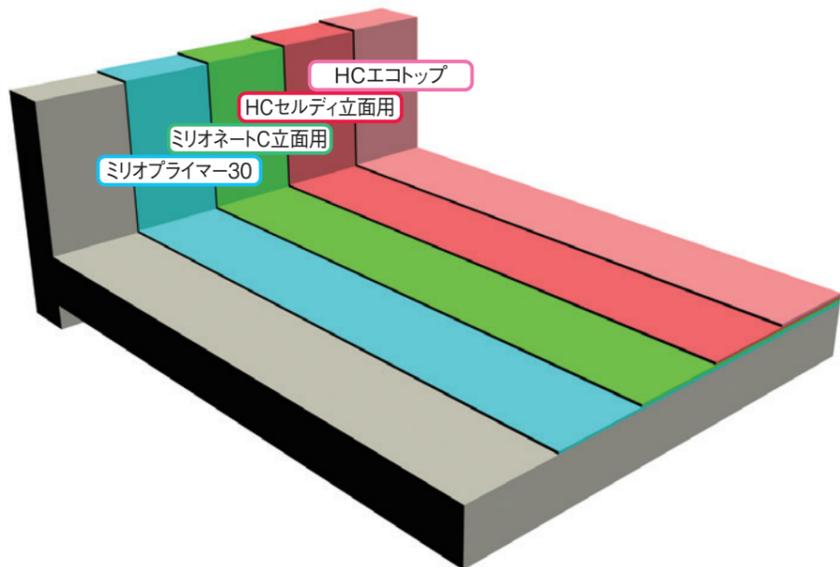
防水床仕様 長尺シート複合工法



■平場部		
CS-25-M		
工程と塗布量 (kg/m ²)		
別途工事	長尺シート	—
	接着用ボンド	—
3	HCセルディ	1.5
2	ミリオネットC	1.0
1	ミリオプライマー30※	0.2

※ミリオプライマー30はミリオネットCB-30とセメントを適量混合したものです。プライマーは下地によって種類を選択して使用します。
 ※下地の吸い込みが激しい場合はプライマーの増し塗りを行ってください。

側溝・巾木・立面部防水仕様



■立面部		
CS-20V-A		
工程と塗布量 (kg/m ²)		
仕上げ層	HCエコトップ	0.2
3	HCセルディ立面用	1.0
2	ミリオネットC立面用	1.0
1	ミリオプライマー30※	0.2

※ミリオプライマー30はミリオネットCB-30とセメントを適量混合したものです。プライマーは下地によって種類を選択して使用します。
 ※下地の吸い込みが激しい場合はプライマーの増し塗りを行ってください。

DCS-35

トップコートレス仕様

■平場部		
DCS-35		
工程と塗布量 (kg/m ²)		
5	HCセルディ	1.5
4	ミリオネットC	1.0
3	ミリオネットC立面用	1.0
2	MFテクノシートP・MFテープPM	—
1	ボンド	0.3~0.5

■立面部		
CS-25V		
工程と塗布量 (kg/m ²)		
4	HCセルディ立面用	0.75
3	HCセルディ立面用	0.75
2	ミリオネットC立面用	1.0
1	ミリオプライマー30※	0.2

※ミリオプライマー30はミリオネットCB-30とセメントを適量混合したものです。プライマーは下地によって種類を選択して使用します。
 ※HCセルディは色調の変化があります。また部分補修部においても色調差が発生します。色調の変化が発生しても物性に関しては問題ありません。
 ※下地の吸い込みが激しい場合はプライマーの増し塗りを行ってください。

CS-25

トップコートレス仕様 屋上増し塗り工法

■平場部		
CS-25		
工程と塗布量 (kg/m ²)		
3	HCセルディ	1.5
2	ミリオネットC	1.0
1	HCプライマーNB	0.15

■立面部		
CS-20V		
工程と塗布量 (kg/m ²)		
3	HCセルディ立面用	1.0
2	ミリオネットC立面用	1.0
1	HCプライマーNB	0.15

※HCセルディは色調の変化があります。また部分補修部においても色調差が発生します。色調の変化が発生しても物性に関しては問題ありません。

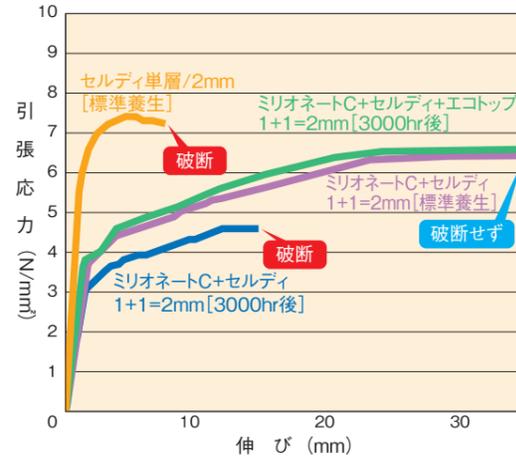
HCセルディシステムの性状・物性

1 耐久性

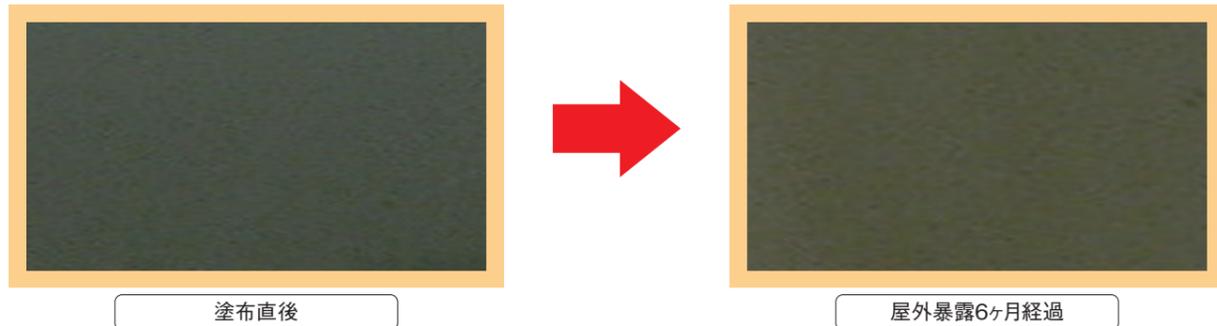
上塗り材のHCセルディは1~2mmの塗膜厚で耐久性を發揮・防水性能を維持※1しますのでトップコートを省略することができます。しかしながら、塗装直後から色調・質感は徐々に変化※2します。美観を求める場合や部分補修対策※3に關しましては、トップコートのご利用をお勧め致します。

※1 経年後の防水性能維持について

右のグラフはSWOM促進暴露試験3000時間経過後(10年に相当)のひび割れ追従性を示しています。トップコートがある場合はもちろん、無い場合でも本試験上では10mmを超えるひび割れ幅に対応していると言えます。



※2 『HCセルディ』標準色グレー(トップコート無しの場合)の色調変化イメージ



※3 部分補修部は既存塗膜との色調差が発生します。平場用と立面用で色調差があります。

2 伸縮性

『HCセルディシステム』の2層構造塗膜はクラック追従性に優れ、防水にとって一番のリスクとなる下地のクラックに対して効力を發揮します。

HCセルディシステムの繰返し疲労試験

- 0.5mm~2.5mmの2.0mm幅で5,000回(試験速度10mm/min)の伸縮繰返しにおいても、破断しません。
- この結果は、ひび割れ部が1日に1回伸縮すると仮定した場合、単純換算で13年相当の繰返しに耐える性能と想定されます。

※上記結果は、いずれも1次元方向のみの試験データであり、実際の環境下における性能を保証するものではありません。

0.5mm~2.5mmの繰返し疲労試験でも破断せず。▶



3 強靱性

上塗り材のHCセルディの引張強さは汎用ウレタン防水材の3倍以上(右)、下層の下塗り防水材は屋根用塗膜防水材 JISA6021 高伸長型適合品であり、安心感のある強靱な塗膜を形成します。また、耐水性等にも優れた屋上緑化など多目的な対応も可能です。

項目	HCセルディ	汎用防水材
硬度(JIS A)	96	54
引張強度(N/mm ²)	11.1	3.5
伸び率(%)	300	880

仕上げ層の仕様

(単位:kg/m²)

仕様記号	1	2	3	4	備考
A	HCエコトップ(0.2)				アクリルウレタン系 カラー塗装仕上げ
Ⅲ ²	HCエコトップⅢ(0.15)	HCエコトップⅢ(0.15)			HALS含有アクリルウレタン系 カラー塗装仕上げ TXフリー環境対応型高耐候性仕様
K	HCエコトップクール(0.2)				アクリルウレタン系 高反射塗装仕上げ
EX	HCエコトップクールE(0.2)				HALS含有アクリルウレタン系 高反射塗装仕上げ TXフリー環境対応型
Si	HCトップSi(0.2)				HALS含有シリコン変性アクリルウレタン系 TXフリー環境対応型高耐候性仕様
KSi	HCエコトップクールSi(0.2)				HALS含有シリコン変性アクリルウレタン系 高反射塗装仕上げ TXフリー環境対応型高耐候性仕様
NS	HCセルディ(0.3)	セラミック系骨材撒布(0.8)	HCセルディ(0.5)	HCエコトップ(0.3)	粗面仕上げ
NG (吹付工法)	HCグリップG(0.6)	HCエコトップ(0.2)			粗面仕上げ
NR (ローラー工法)	HCグリップR(0.6)	HCエコトップ(0.2)			粗面仕上げ

- 仕上げ層の仕様から選択する事で、基本仕様以外にもバリエーションのある仕様を組み合わせることができます。
- 各種塗装材は色調により2回塗り以上が必要になります。
- HCグリップG HCグリップ:セラミック系骨材:HCダレ止め材:キシロール 10:7:0.05:0.6~1.2
- HCグリップR HCグリップ:セラミック系骨材:HCダレ止め材:キシロール 10:7:0.05:0.6~1.2

HCエコトップ凹凸仕上げフィラー配合比の目安

塗布方法	仕上種類	主剤:硬化材(kg)	シンナー(kg)	配合材料	配合量(g)	配合比(%)
リシガン 吹付塗装	FM仕上げ	7:7	1~2	トップフィラー-FMII	420	3
	M仕上げ	7:7	1~2	ゴム粉M	280	2
ローラー塗装	FM仕上げ	7:7	0~1	トップフィラー-FMII	420	3
	M仕上げ	7:7	0~1	ゴム粉M	140	1

○トップコートを塗布する仕上げのみ凹凸仕上げが可能となります。トップコートレス仕様は平滑な仕上がりととなります。

政令別表による危険物第4類の指定数量と主要商品名

類別	指定数量	性質	商品名
第1石油類	200L	引火点が21℃未満のもの	●CB-40,CB-50,MS-60 ●HCプライマー-NB(通年用) 主剤・硬化剤 ●HCエコトップ 硬化剤 ●HCエコトップクール 硬化剤 ●MFボンド
第2石油類	1,000L	引火点が21℃以上70℃未満のもの	●CB-30 ●HCエコトップ 主剤 ●HCセルディ 主剤・硬化剤 ●HCグリップ 主剤 ●HCセルディ 立面用 主剤 ●HCダレ止め剤 ●硬化促進剤V ●硬化促進剤VI ●硬化促進剤VII ●HCトップシンナー ●キシロール ●NSソルベント ●ミリオネートC 主剤 ●ミリオネートC 立面用 主剤
第3石油類	2,000L 4,000L	引火点が70℃以上200℃未満のもの 水溶性液体	-
第4石油類	6,000L	引火点が200℃以上250℃未満のもの	●HCボンド 主剤
可燃性固体類	3,000kg	-	●ミリオネートC 立面用 硬化剤 ●HCグリップ 硬化剤
可燃性液体類	2m ³	-	●ミリオネートC 硬化剤

※HCセルディ 立面用 硬化剤及びHCボンド 硬化剤(S,W)は、非危険物固体に相当

危険物の取扱いについて

- (1) 危険物の保管および取扱いは、消防法およびその関連法規に従って行わなければならない。
- (2) 危険物は消防法により分類され、それぞれに貯蔵できる数量(指定数量という)が決められている。
 - ① 指定数量以上(指定数量の倍数が1以上)の場合は、消防法ならびにその関連法規
 - ② 指定数量未満(指定数量の倍数が1未満)の場合は、市町村条例
 - ③ 指定数量の1/5未満(指定数量の倍数が1/5未満)の場合は、無届け使用が可能
 - ④ 指定数量の計算

$$\text{指定数量の倍数} = \frac{A\text{の貯蔵量}}{A\text{の指定数量}} + \frac{B\text{の貯蔵量}}{B\text{の指定数量}} + \frac{C\text{の貯蔵量}}{C\text{の指定数量}}$$

- ⑤ 指定可燃物として分類されるものは、指定数量以上になれば指定可燃物となり、市町村条例に従わなければならない。

HCセルディシステム 製品一覧表

	品名	荷姿	備考
高耐久性ウレタン材	HCセルディ	30kg/セット(主剤15kg,硬化剤15kg)	2成分高耐久性ウレタン(比重:1.3)
	HCセルディ立面用	10kg/セット(主剤5kg,硬化剤5kg)	2成分高耐久性ウレタン(比重:1.3)
	HCグリップ	10kg/セット(主剤5kg,硬化剤5kg)	2成分高強度ウレタン床材
ウレタン塗膜防水材	ミリオネートC	18kg/セット(主剤6kg,硬化剤12kg)	2成分ウレタン防水材(比重:1.3) JIS A6021ウレタンゴム系高伸長形適合品
	ミリオネートC立面用	18kg/セット(主剤6kg,硬化剤12kg)	2成分ウレタン防水材(比重:1.3) JIS A6021ウレタンゴム系高伸長形適合品
プライマー	ミリオネートCB-30	17kg/缶	1成分ウレタン系プライマー
	ミリオネートCB-40	16kg/缶	1成分ウレタン系プライマー
	ミリオネートCB-50	16kg/缶	1成分ウレタン系プライマー
	ミリオネートMS-60	0.5kg/缶・17kg/缶	1成分特殊ウレタン系プライマー
	HCプライマーNB(通年用)	8kg/セット(主剤4kg,硬化剤4kg)	ウレタン層間用プライマー
仕上げ材	HCエコトップ	14kg/セット(主剤7kg,硬化剤7kg)	2成分アクリルウレタン系トップコート
	HCエコトップクール	14kg/セット(主剤7kg,硬化剤7kg)	2成分アクリルウレタン系高反射トップコート
	HCエコトップクールE	15kg/セット(主剤6kg,硬化剤9kg)	2成分アクリルウレタン系高反射トップコート
	HCトップSi	15kg/セット(主剤6kg,硬化剤9kg)	シリコン変性アクリルウレタン系トップコート
	HCエコトップクールSi	15kg/セット(主剤6kg,硬化剤9kg)	シリコン変性アクリルウレタン系高反射トップコート
接着剤	MFボンド	15kg/缶	1成分クロロレン系溶剤型ボンド
	HCボンド	10kg/セット(主剤2kg,硬化剤8kg)	2液性ウレタン系無溶剤型ボンド
緩衝シート・補強材	MFテクノシートP	巾1.2m×50m巻	特殊アクリル繊維不織布
	MFテープPM	巾50mm×50m巻	ジョイントテープ
	ミリオクロスK	巾1.02m×50m巻	ポリエステル繊維織布
	ミリオクロスKN	巾100mm、200mm×50m巻	粘着層付きポリエステル繊維織布
副資材	脱気筒C	2個/箱	オールステンレス製脱気筒
	脱気盤	10個/箱	壁用脱気装置
	硬化促進剤V	200g/缶	CB-30、MS-60用
	硬化促進剤VI	1kg/缶	ミリオネートC、ミリオネートC立面用
	硬化促進剤VII	1kg/缶	HCセルディ用
	硬化促進剤VIII	1kg/缶	HCプライマーNB(通年用)用
	HCダレ止め剤	1kg/缶	防水材・床材用液状ダレ止め剤
	絶縁テープN	巾50mm、75mm 巾100mm、150mm×20m巻	自着層付きブチルゴム-不織布複合テープ
	ゴム粉M	0.45kg/袋、10kg/袋	粗面仕上げ用
	トップフィラーFMI	0.42kg/袋	粗面仕上げ用
	セラミック系骨材	25kg/袋	粗面仕上げ用骨材
下地調整材	CRロック	27.6kg/セット(主剤3.8kg,硬化剤3.8kg,粉体20kg)	エポキシ系下地調整材
	ミリオネートCR	18kg/缶	SBR系下地調整材(液体部)
	ノ口用パウダー	20kg/袋	ノ口用 SBR系下地調整材(粉体部)
希釈剤	キシロール	15kg/缶	ウレタン防水用標準希釈剤
	HCトップシンナー	14kg/缶	HCエコトップ用希釈剤
	NSソルベント	18ℓ/缶	環境対応型希釈剤

HCセルディシステム 施工上の注意

下地調整について

1. 下地の乾燥

(1) 補修防水工事・改修防水工事
下地の乾燥は防水工事において最も重要な条件となります。下地の乾燥が不十分な状態で防水工事を行うことは、後々膨れの原因となります。水分の管理法としては、下地を一片が約1mのビニルシートで覆い、一昼夜前後の結露の状況を確認する方法や高周波水分計により下地水分を計測する方法があります。

(2) 新築工事

新築のコンクリートやモルタルは、夏季で3週間、冬季で4週間以上の養生が必要となります。コンクリートやモルタルの水分の管理法としては、下地を一片が約1mのビニルシートで覆い、一昼夜後の結露の状況を確認する方法や高周波水分計により下地水分を計測する方法があります。

2. 下地の平滑性

下地の平滑性も防水工事の重要な条件となります。下地の凸部分や突起異物はサンダー等で除去してください。また、不陸部や水溜りのできる箇所には、下地調整剤の「CRロック」モルタルで平滑に仕上げてください。

3. 下地勾配の確認

下地の勾配は1/50～1/20の範囲に納まるようにしてください。勾配の調整は「CRロック」モルタルで処理してください。

4. 下地の浮き

下地に浮きのある場合は、後々の防水層の剥離現象の原因ともなります。下地の浮きの有無を確認して下さい。浮きが大きな場合はその部分を切り取った後「CRロック」モルタルで、平滑に仕上げてください。浮きが小さな場合にはエポキシ系の注入材で処理することも出来ます。

5. 下地クラック部の処理

下地に1mm以上のクラックが生じている部分はUカットし、プライマーを塗布した後「ウレタン系シーリング材」を充填して、平滑に処理してください。1mm未満のクラックの場合「立面用防水材」又は「ウレタン系シーリング材」で埋めて下さい。

6. 下地の清掃

下地表面の汚れ、特にマシン油等の汚れは防水層の下地への接着性を阻害して、後々の剥離現象の原因ともなります。下地の清掃とともに汚れを除去してください。また、同時にレイタンスを除去し、下地の脆弱部分も処理してください。

7. 目地の処理

既設アスファルト系目地材がある場合には除去した後にバッカーを埋め込み、「ウレタン系シーリング材」を充填します。下地の伸縮目地部や塩ビシートのジョイント部等は、補強布「ミリオクロス」を用いて防水材の補強塗りを行ってください。

8. 出隅部、入隅部の処理

出隅部は10mm～20mm程度の丸面または5mm程度の面取り、入隅部は直角仕上となっている事が望ましいです。出隅部、入隅部ともに補強布「ミリオクロス」を用いて、防水材の補強塗りを行ってください。

9. 貫通パイプ回りの処理

金属製パイプは錆や塗料を除去した後、樹脂製パイプはサンディング処置後、専用プライマーを塗布し、補強布「ミリオクロス」を用いて、防水材の補強塗りを行ってください。

防水施工を始めるにあたって

1. 気候の条件

(1) 施工時の気温
「HCセルディ」は施工時の気温によって作業可能な時間が変わります。
●使用目安
「HCセルディ」は1年を通して使用できる「通年用(S、W)」として用意しております。5℃以下での施工はしないで下さい。また、施工面に結氷や霜が付着していると防水層の下地への接着不良を起こしますので、施工にあたっては気候の条件に十分な注意を行ってください。
(2) 施工の中止
降雨、降雪、強風が予想される場合は施工中止としてください。

2. 防水材料の粘度調整

気温その他、施工にあたって「HCセルディ」の材料粘度を調整しなければならない場合には、必ずキシロールまたはNSソルベントを使用し、使用量の限度は、主剤と硬化剤の合計量の重量を5%以内としてください。アルコール類が含まれているエポキシ樹脂用シンナーや塗料用シンナーの使用は反応硬化に阻害を起こしますので、絶対に使用しないでください。

防水施工の安全管理

1. 保護具の着用

「HCセルディ」の取扱いにあたっては保護具(ヘルメット、保護眼鏡、保護手袋、保護マスク)を着用してください。

2. 危険物の取扱い

使用材料の多くが消防法で定める危険物に該当します。施工にあたって、材料の運搬や保管貯蔵・取扱いについて十分に配慮してください。

3. 作業環境の管理

防水施工にあたっては、常に作業上の危険や事故防止に配慮してください。また、施工の現場だけでなく、周辺地域に対しても十分な配慮が求められます。労働安全衛生法に従い施工してください。

4. その他注意事項

長期間シート養生を行う場合は、ウレタン塗膜施工後7日間以上養生してください。

施工後の維持管理

施工の完了した防水層の健全維持のためには、施工後の維持管理が極めて重要です。施工及び建物管理者に以下のような管理をお願いします。

HCセルディ防水システム 維持管理のお願い

防水性能を長期にわたって維持する為に、次の管理をお願いします。
1 業者に依頼する等、安全を確保した上で、定期的に清掃を行って、飛来物や排水溝、排水口の泥等の詰まりを除去し、水溜まりの無いようにして下さい。
2 施工業者による、数年毎の防水システムの点検を推奨致します。
3 異常が認められた場合は、直ちに施工業者に連絡して下さい。内容によっては有償による補修になる場合がありますので、ご了承下さい。(異常の例:防水層の磨耗・剥離・ひび割れ・浮き・膨れ・鳥害による被害など)

HCセルディ防水システム 使用上の注意事項

1 スパイクシューズ等の種類によっては、歩行により防水層を損傷する場合があります。
2 火気を使用しないで下さい。
3 タバコの吸い殻の投げ捨てや花火をすると、防水層を損傷する場合があります。
4 溶剤、ガンリン、不凍液等の薬品をこぼさないで下さい。
5 防水層に膨れや剥がれを生じる原因となります。
6 重量物や鋭利なものを引きずったり、落としたりしないで下さい。
7 防水層が損傷する場合があります。
8 植木、椅子、テーブル等の種類によっては、防水層を損傷させる場合があります。
9 ゴルフの練習等防水層を損傷させる行為は避けてください。
10 ペットの糞尿は防水層を損傷させる場合があります。
11 洗浄には中性洗剤以外の洗剤は使用しないで下さい。
12 クーリングタワーに使用する防藻剤は防水層を損傷させる場合があります。
13 表面が水で濡れている場合は、滑りやすいので注意して下さい。